

受講前に特に習得したい(させたい)と思った手技

受講生：あなたは手技のうち、受講前に特に習得したいと思ったものはありますか？(複数回答)

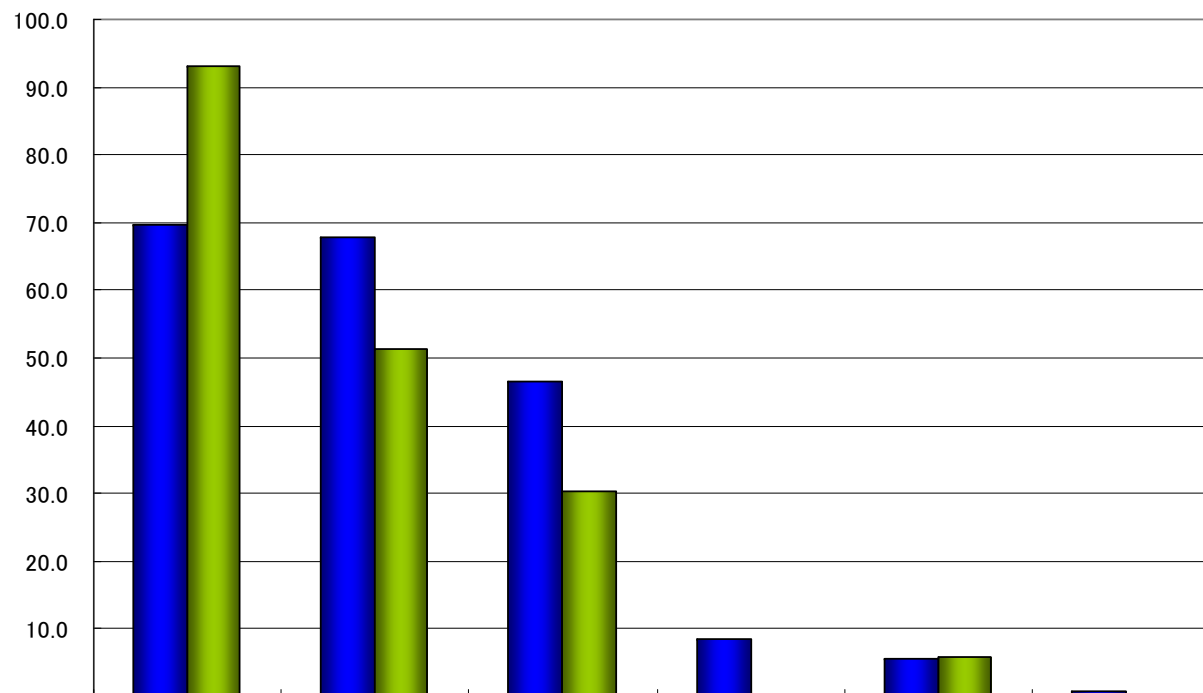
インストラクター：あなたは手技のうち、受講者に特に習得させたいと思うものはどれですか？(複数回答)

■ 受講生 ■ インストラクター

◆受講前に習得したい(させたい)と思った手技は、受講生、インストラクター共に、最も高かったのは「バッグマスク」であり、手技の優先順位認識は共通であると言ってよいだろう。しかし受講生は「人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション」の習得希望も高く、両者の間に若干の温度差もみられる。

インストラクターは「バッグマスク」を最も時間をかけて教えているという自由回答が多くみられ、講習会の限られた時間の中で「人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション」に多くの時間をかけられない現状がうかがえた。

ブースの人数制限の見直しなども必要かもしれない。

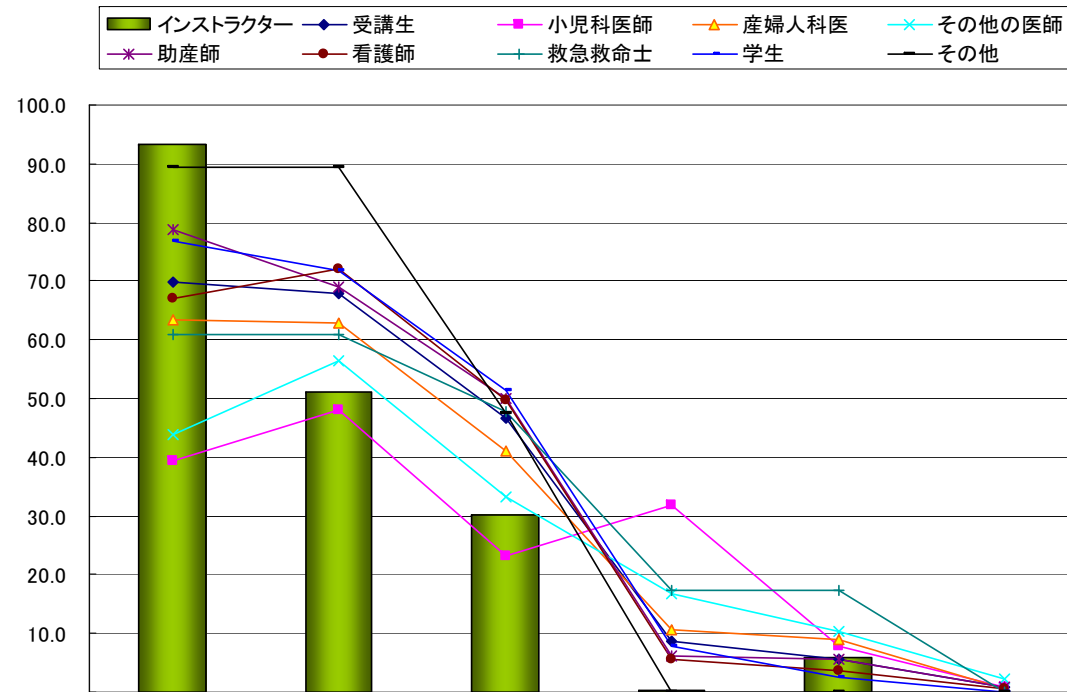


	合計	バッグマスク	人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション	胸骨圧迫	全て習得していた(この中にはひとつもない)	その他	無回答
受講生	1830	69.8	67.8	46.6	8.6	5.6	0.7
インストラクター	588	93.2	51.2	30.3	0.2	5.8	-

受講前に特に習得したいと思った手技<受講生:職業別>

◆受講前に習得したい手技を、受講生の職業別にみると、小児科医師は、いずれの項目に対しても回答比率が低く、「全て習得していた」の回答率が高く、求めているものが他の職業層に比べ、相対的に違うことが類推できる。

インストラクターの習得させたい手技が圧倒的に「バッグマスク」なのに対して、小児科医師以外の受講生の半数以上が「バッグマスク」だけではなく、「胸骨圧迫とのコンビネーション」までの習得を望んでいる。



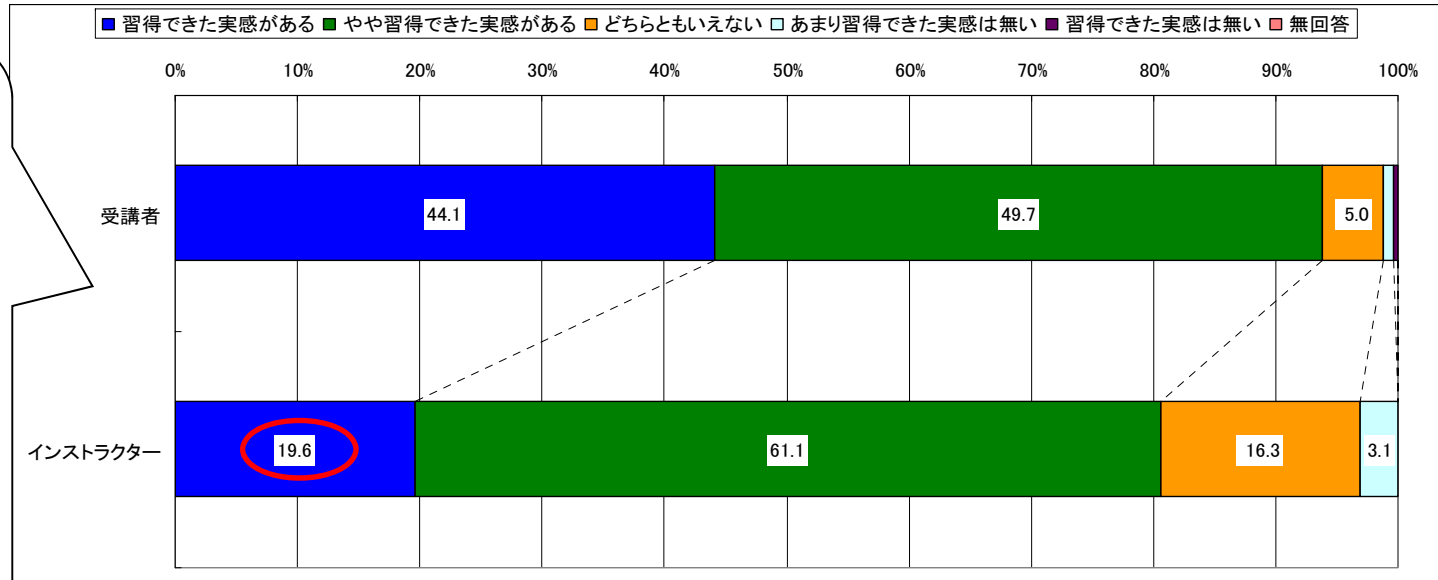
		合計	バッグマスク	人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション	胸骨圧迫	全て習得していた (この中にはひとつもない)	その他	無回答
受講生		1830	69.8	67.8	46.6	8.6	5.6	0.7
受講生 職業	小児科医師	129	39.5	48.1	23.3	31.8	7.8	0.8
	産婦人科医	170	63.5	62.9	41.2	10.6	8.8	0.6
	その他の医師	48	43.8	56.3	33.3	16.7	10.4	2.1
	助産師	832	78.7	69.1	49.9	6.1	5.6	0.8
	看護師	568	66.9	72.2	49.6	5.6	3.5	0.5
	救急救命士	23	60.9	60.9	47.8	17.4	17.4	-
	学生	39	76.9	71.8	51.3	7.7	2.6	-
	その他	19	89.5	89.5	47.4	-	-	-
インストラクター		588	93.2	51.2	30.3	0.2	5.8	-

習得実感：バグマスク

受講生：受講後、どの程度習得できたと実感しましたか？

インストラクター：インストラクターとしての自己評価として、受講者に習得させることができていると思いますか？

◆バグマスクについては受講生の93.8%が「習得できた・やや習得できた」と回答。それに対してインストラクターの自己評価が低い。その理由の自由回答では、「時間が足りない」「実践で可能か不明であるため」又、インストラクター自身の「経験不足」などがあげられた。



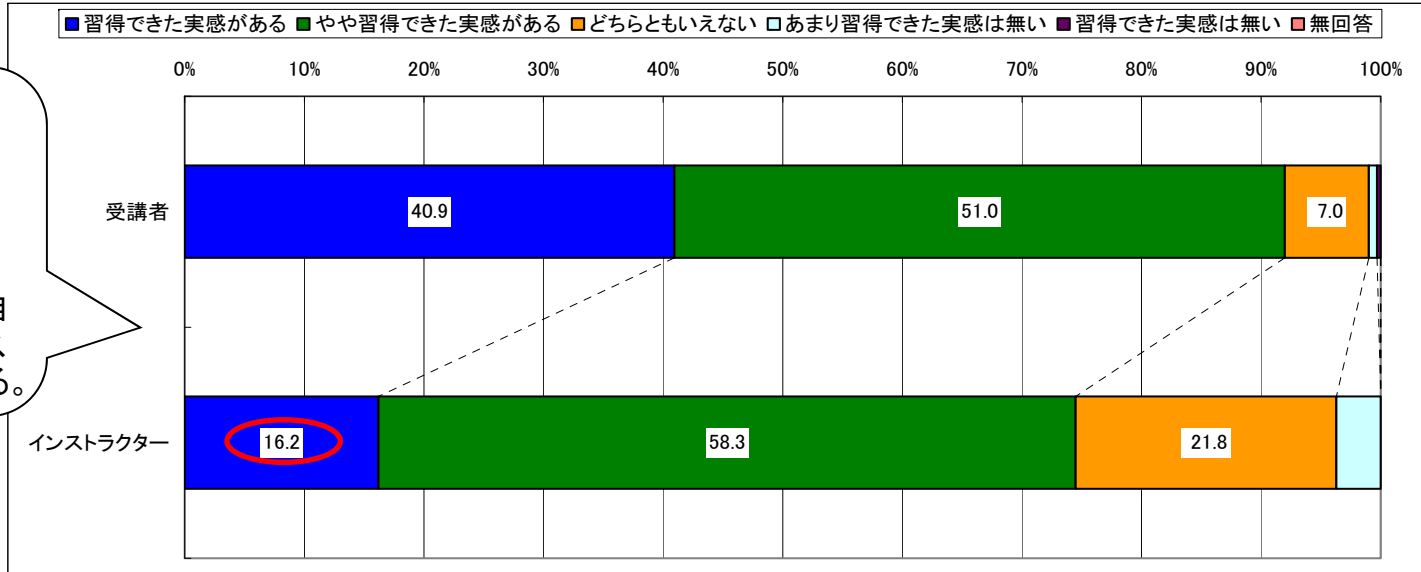
		合計	習得できた 実感がある 計	習得できた 実感がある	やや習得 できた実感 がある	どちらとも いえない	習得できた 実感はな い計	あまり習得 できた実感 は無い	習得できた 実感は無い	無回答
受講生		1830	93.8	44.1	49.7	5.0	1.2	0.9	0.3	-
NCPR受講コース	A(専門)コース	1189	93.8	47.5	46.3	4.9	1.3	1.0	0.3	-
	B(一般)コース	641	94.0	37.8	56.2	5.3	0.8	0.6	0.2	-
	職業									
	小児科医師	129	93.8	66.7	27.1	4.7	1.6	1.6	-	-
	産婦人科医	170	97.6	63.5	34.1	1.2	1.2	0.6	0.6	-
	その他の医師	48	100.0	54.2	45.8	-	-	-	-	-
	助産師	832	93.0	37.1	55.9	5.6	1.3	0.8	0.5	-
	看護師	568	94.3	45.2	49.1	4.9	0.7	0.7	-	-
	救急救命士	23	87.0	34.8	52.2	8.7	4.3	4.3	-	-
	学生	39	82.1	10.3	71.8	15.4	2.6	2.6	-	-
	その他	19	94.7	42.1	52.6	5.3	-	-	-	-
合計		588	80.7	19.6	61.1	16.3	3.1	3.1	-	-
インストラクター		588	80.7	19.6	61.1	16.3	3.1	3.1	-	-

習得実感：胸骨圧迫

受講生：受講後、どの程度習得できたと実感しましたか？

インストラクター：インストラクターとしての自己評価として、受講者に習得させることができていると思いますか？

◆胸骨圧迫については、受講生の91.9%が「習得できた、やや習得できた」と回答。インストラクターの自己評価はバグマスクよりもさらに下がる。



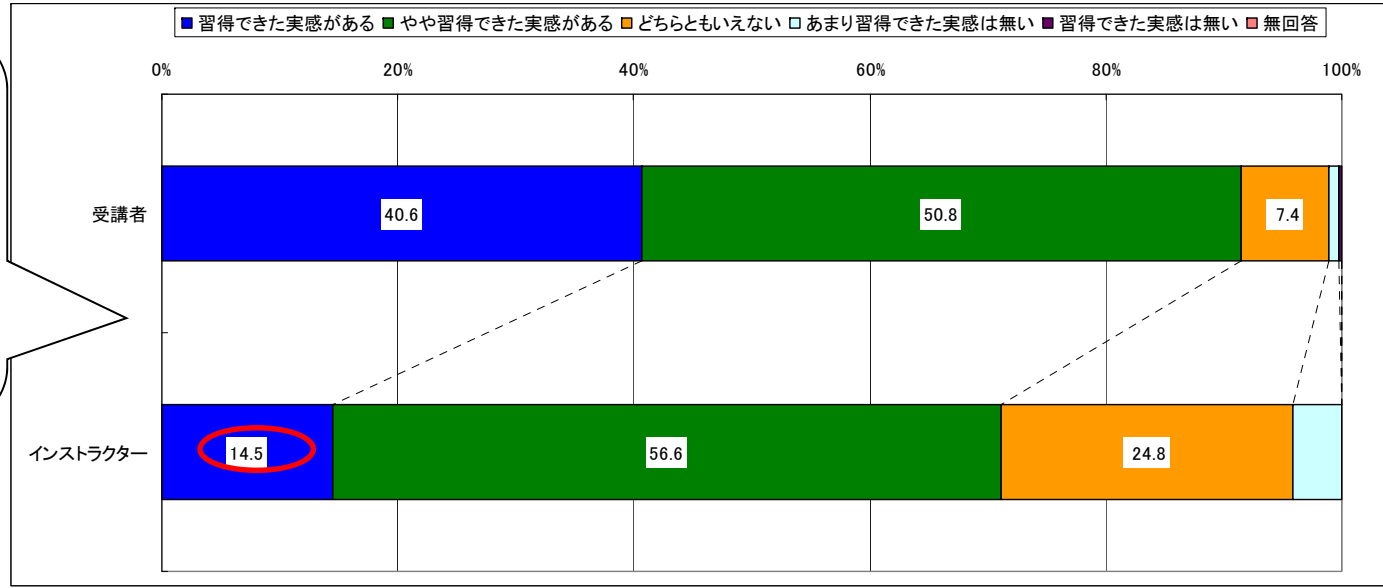
		合計	習得できた実感がある計	習得できた実感がある	やや習得できた実感がある	どちらともいえない	習得できた実感はない計	あまり習得できた実感は無い	習得できた実感は無い	無回答
受講生		1830	91.9	40.9	51.0	7.0	1.0	0.7	0.3	-
NCPR受講コース	A(専門)コース	1189	92.4	44.0	48.4	6.6	0.9	0.6	0.3	-
	B(一般)コース	641	91.2	35.3	55.9	7.8	1.1	0.9	0.2	-
職業	小児科医師	129	96.1	68.2	27.9	3.1	0.8	0.8	-	-
	産婦人科医	170	95.3	64.1	31.2	4.1	0.6	-	0.6	-
	その他の医師	48	100.0	54.2	45.8	-	-	-	-	-
	助産師	832	89.9	33.3	56.6	8.5	1.6	1.1	0.5	-
	看護師	568	92.4	38.7	53.7	7.2	0.4	0.4	-	-
	救急救命士	23	87.0	52.2	34.8	8.7	4.3	4.3	-	-
	学生	39	92.3	23.1	69.2	7.7	-	-	-	-
その他	19	94.7	42.1	52.6	5.3	-	-	-	-	
合計		588	74.5	16.2	58.3	21.8	3.7	3.7	-	-
			習得させることができていると思う計	十分習得させることができていると思う	習得させることができていると思う	どちらともいえない	習得させることができていると思う計	あまり習得させることができていると思う	全く習得させることができていると思う	無回答
インストラクター		588	74.5	16.2	58.3	21.8	3.7	3.7	-	-

習得実感：人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション

受講生：受講後、どの程度習得できたと実感しましたか？

インストラクター：インストラクターとしての自己評価として、受講者に習得させることができていると思いますか？

◆人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーションについては、受講生の91.4%が「習得できた、やや習得できた」と回答。



		合計	習得できた 実感がある 計	習得できた 実感がある	やや習得 できた実感 がある	どちらとも いえない	習得できた 実感はな い計	あまり習得 できた実感 は無い	習得できた 実感は無い	無回答
受講生		1830	91.4	40.6	50.8	7.4	1.1	0.9	0.2	-
NCPR受講コース	A(専門)コース	1189	91.8	43.2	48.6	7.1	1.0	0.8	0.2	-
	B(一般)コース	641	90.6	35.7	54.9	8.0	1.4	1.1	0.3	-
	職業									
	小児科医師	129	96.1	69.0	27.1	3.1	0.8	0.8	-	-
	産婦人科医	170	95.3	60.0	35.3	4.1	0.6	-	0.6	-
	その他の医師	48	100.1	56.3	43.8	-	-	-	-	-
	助産師	832	88.4	33.4	55.0	9.5	2.1	1.7	0.4	-
	看護師	568	92.8	39.1	53.7	6.9	0.4	0.4	-	-
	救急救命士	23	87.0	34.8	52.2	13.0	-	-	-	-
	学生	39	92.3	23.1	69.2	7.7	-	-	-	-
	その他	19	94.7	42.1	52.6	5.3	-	-	-	-
合計										
		合計	習得させる ことができ ていると思 う計	十分習得さ せることが できている と思う	習得させる ことができ ていると思 う	どちらとも いえない	習得させる ことができ ていないと 思う計	あまり習得 させること ができてい ないと思う	全く習得さ せることが できていな いと思う	無回答
インストラクター		588	71.1	14.5	56.6	24.8	4.1	4.1	-	-

インストラクター：受講者に習得させることができている理由(バッグマスク)

＜十分習得させることができている＞	
3つの中で最も現場で頻度が高いと思うから、一番覚えてほしいと思っている	小児科医師
BLSと同じであり教え方は変わらないため	その他
一度に3～4人の少人数の受講者で一人一人に十分時間をかけ手技を指導することができたため	産婦人科医
一番時間をかけて説明実施させているから	産婦人科医
一番重要であることを強調し、繰り返し練習させている	小児科医師
一番力を入れている	小児科医師
一番必要であると考え	産婦人科医
演習時に実技確認し評価している。できていない人は強化。	助産師
各個人のスキルに合わせて指導している	小児科医師
各自ができるまで手技をしてもらっています	小児科医師
空気漏れ、指の位置などうまくいかない実体験を有しているjから	小児科医師
時間を十分にさいている。重要な手技だから。	小児科医師
時間をとって集中的に指導している	小児科医師
自信を持ってできる	産婦人科医
しっかりやってもらうためにアンビュー・ジャクソンとも繰り返し実践	小児科医師
実技のセクションで確認している	小児科医師
実際現場でできている	小児科医師
実際に行っている	産婦人科医
実際に教えた研修医の手技を見て	小児科医師
実際に講習会を受けた方の実践を見て	看護師
主観的なもので特に根拠はない。今後はインストラクター側へのフィードバック方法を考えていく必要がある	産婦人科医
手技に習熟しているから	小児科医師
受講者が上手に行っているから	産婦人科医
受講者ができることを確認することが可	小児科医師
受講者からの評価	産婦人科医
受講者の意欲が非常に高いため	産婦人科医
受講者の実技より	産婦人科医
一人一人確認する時間を必ず取っているから	助産師
一人一人時間をかけて指導しているから	小児科医師
一人一人評価しているから	小児科医師
フロー式のバッグでも人形の胸部が十分に上がるから(当初は出来ない人がほとんど)	小児科医師
分娩立ち合いで必要時実施できているのを見て	小児科医師

＜習得させることができている＞		
2か月おきに繰り返し講習会を開催しているからおそらく	小児科医師	小児科医師
CPAPが良く理解されているか不明	小児科医師	小児科医師
圧モニターを使用しながらしっかり圧がかかり胸が上がるまで練習してもらっているため	小児科医師	小児科医師
一度教えただけで十分できるようになるとは思えないから	産婦人科医	産婦人科医
一番時間をさくようにしているから	産婦人科医	産婦人科医
一番時間をついやしている	助産師	助産師
一番大事な手技として時間を割いているため	小児科医師	小児科医師
基本的な知識技術を繰り返し教えているから	産婦人科医	産婦人科医
基本となる手技であり反復してトレーニングさせている	小児科医師	小児科医師
基本はOK。ただ人形と実際との違いに戸惑うかも。	助産師	助産師
基本練習に時間を取り確実な加圧ができていることを確認しています	小児科医師	小児科医師
講習内の実技で取得を実感するため	小児科医師	小児科医師
講習前よりも手技が上手になっている	小児科医師	小児科医師
口頭でも実習でも行っている	小児科医師	小児科医師
呼吸の確率は蘇生法の基本であり、バッグマスクでの救命率が高いため	看護師	看護師
個人ごとに十分指導しているから	小児科医師	小児科医師
個人の技量に差があるが時間は限られている	小児科医師	小児科医師
固定方法・速度・胸部の上がり方(及び圧)を確認	看護師	看護師
この手技の獲得が重要だと考えているため、コンビネーションを実施しながら比較的時間をかけて実施してもらっているため	助産師	助産師
時間をさいて指導しているが閉鎖回路にするのが難しいため	産婦人科医	産婦人科医
仕事中でもよく行うため、自分の手技にある程度自信があるから	看護師	看護師
事前学習を個々で行ってきているため少しのインストラクションでも習得しているように見えるため	小児科医師	小児科医師
しっかり時間をかけている	小児科医師	小児科医師
実技演習で受講生が手技が良好であった。喚起の確立の重要性を説明できたため	看護師	看護師
実技が何回も行えた	産婦人科医	産婦人科医
実技実習できている	産婦人科医	産婦人科医
実技シナリオできちんとできているか確認しながら行っている	産婦人科医	産婦人科医
自分の手技よりもさらに熟練した方たちがいるため、その方達を見ているとまだまだ自分が十分ではない	小児科医師	小児科医師

※これは自由回答の抜粋です。

インストラクター：受講者に習得させることができていない理由(バグマスク)

＜どちらともいえない＞	
1回しかしていないため	産婦人科医
1回だけの講習で実際に十分実施可能か。習得は不可能と思うがきっかけにはなっている。	小児科医師
1回の講習だけではうまくできない人も多い	産婦人科医
1度しか開催しておらず、かつその後すぐ転勤となってしまったため	産婦人科医
1日の実習で使い物にならそう	産婦人科医
DrだけでなくNsがMSWのファシリテーションをしたことがない	小児科医師
NCPRの基本にあり全ての分娩期間で実施できるから	産婦人科医
インストラクター回数が少ないので評価できない	看護師
インストラクターとしての経験が少ないため分らない	助産師
インストラクター補助としての経験が1度しかない	助産師
インストラクター補助の経験回数が少ないため	看護師
時間が少ない・もっと上手な教え方があるような気がする	小児科医師
時間が足りない	小児科医師
時間が短い。受講生の能力にも差がある	助産師
実際に行くと難しいから	看護師
実際に行う場面がないのと、その場のみとなっているため	助産師
実際に現場で可能か不明	小児科医師
実際に使用する現場をみていない	産婦人科医
実際の経験が少ないので	産婦人科医
実際の蘇生で有効な手技が行えるのか判断できない	産婦人科医
実際の間人形には大きな差がある	小児科医師
実際の現場での実践評価ができていない	看護師
実践が少ない	産婦人科医
自分自身の手技に自信がない部分がある	助産師
自分自身人に教えるためには研鑽が必要	看護師
自分の手技に自信がない部分があるから	助産師
ジャクソンとアンビューで差がある	看護師
ジャクソンリリースbagでのCPAP、PPVは難しい	小児科医師
全て補助で入っている自分の力量は不十分である	助産師
正当なやりかたを習う機会がはじめての受講者が多く、時間をどれだけかけても1回の講習では十分とは思えない	小児科医師
専門外(日々の診療として新生児をあまり扱っていない)	小児科医師
蘇生全般(新生児の)に触れる機会が自分自身も少ないため	その他の医師
その後しっかり活用できているか分からない	小児科医師
その後の実際に患者に対応しているところを見ていないので	その他の医師
その場ではできているが人形と実際の赤ちゃんでは違うから	看護師
その場ではできるが実際に行えるかどうかの評価ができていない	看護師

＜あまり習得させることができていない＞	
インストラクター補助のため指導は主にインストラクターがしているから	助産師
上手くできない人がいたから	看護師
器具の扱いが難しい	産婦人科医
基本手技を指導できる時間が限られている	小児科医師
経験が不十分なので自信につながらっていない	助産師
講習会だけでなく実地の経験が必要	産婦人科医
自信がない	助産師
自信がない	産婦人科医
自分自身が未熟のため	助産師
自分自身にまだ自信がしっかり持てないからだと思う	助産師
習得させているといわせるほどに自分が習得していない	助産師
受講生も実際に現場でうまくできていないため	小児科医師
初めて体験する方たちに受講時の時間だけでは不十分	看護師
普段行うことがなく、他の新生児科Drたちに比べ実際の指導の自信がないから	産婦人科医
まだ補助的にお手伝いさせていただいているので教えるということには不慣れな思いがある	助産師
まだ補助のみで少しの介助しか経験がない	助産師
マネキンではある角度に顎部を後屈させると換気ができるが、現場ではマスクフィットを含めて困難なことが多いと感じるため	その他の医師

※これは自由回答の抜粋です。

インストラクター：受講者に習得させることができている理由(胸骨圧迫)

<十分習得させることができている>	
根拠はないが全員楽しそうにやっているの	小児科医師
視覚で判断しています	産婦人科医
時間が許す限り繰り返し行わせるため	小児科医師
時間をかけて実施	小児科医師
時間をとって集中的に指導している	小児科医師
自信を持ってできる	産婦人科医
しっかり圧迫できるように繰り返ししてもらっている	小児科医師
しっかり時間をかけている	小児科医師
実技時間、アシスト人数ともに十分であることから	小児科医師
実技にて全員できるようになるとともに困難さを実感している者が多い	小児科医師
実技のセクションで確認している	小児科医師
受講者ができることを確認することが可	小児科医師
受講者からの評価	産婦人科医
受講者の意欲が非常に高いため	産婦人科医
受講者の実技より	産婦人科医
受講者の反応を見て	小児科医師
少なくとも講習会では各受講者に実際に行ってもらおうとしっかり習得できている	産婦人科医
人形だからためらいなくできているというのは否めない	産婦人科医
人形でのやりにくさは少ない	小児科医師
人形を使い観察している	小児科医師
バギングに比べ比較的手技が容易	小児科医師
必要な症例があった時的確に対応している	産婦人科医
一人一人確認する時間を必ず取っているから	助産師
一人一人時間をかけて指導しているから	小児科医師
一人一人評価しているから	小児科医師
他資的に評価しやすい	小児科医師
他のことに気をとられてはいけなことを実体験で知っている	小児科医師
マネキンの実践で習得できるまで繰り返し指導	小児科医師
理論上は教えやすいと思いましたが	小児科医師

<習得させることができている>	
一度教えただけで十分できるようになるとは思えないから	産婦人科医
一度でも見て体験することでまったく違う。大人との違いや手技の違いは十分学べる。	助産師
一般的な手技や知識は伝えているが実際は不明	小児科医師
インストラクターをするたびにいつもさらに向上点が見つかるため(常に改善点がある)	産婦人科医
概ねできているように見える	小児科医師
教えられることは全て教えているつもりだが十分かは分からない	小児科医師
おそらく完全ではないと思います	小児科医師
大人との違いはあるが経験的に皆よく知っている	産婦人科医
回数・深さ・位置・タイミングについての確認を確実にしてもらっています	小児科医師
限られた時間でかつシュミレーターによる手技に関し若干の不安がある	産婦人科医
学習時においては人形で危機感がうすく対応しやすいが、実践で上手くできるかどうか分からない	助産師
必ずしも経験していないため	産婦人科医
教科書的なことや実習は問題ないと考えているが、教わった人々が実際の必要な場面できちんとした手技ができているかまでは確認していないので、①にするにはおこがましい気がする。実際に役に立ってなんぼの内容なので。	産婦人科医
胸骨のへこむ状況について実際を想定している	助産師
グループごと確認し自信がつくまで実施してもらっている	看護師
研修生がうまくできているから	産婦人科医
講習会後の受講者の反応をみて	小児科医師
講習会で実際に行ってもらっているから	産婦人科医
講習会ではベストと尽くしてるつもりだが現実の蘇生の場合どこまで実践できるかを確認できない	小児科医師
講習会では問題なくできているが臨床ではどうか不明	産婦人科医
参加者の手技の確認により	小児科医師
時間が足りないので十分でないと思う	看護師
時間不足のためもう少しという受講者に時間をとれない	小児科医師

※これは自由回答の抜粋です。

インストラクター：受講者に習得させることができていない理由（胸骨圧迫）

<どちらともいえない>	
DrだけでなくNsがMSWのファシリテーションをしたことがない	小児科医師
Drに帰することが多くNsへは強化していない	助産師
位置や深さは確認できるが、有効な胸骨圧迫かの判断が困難	助産師
インスト補助なのでインストラクターの説明に補足程度なので	助産師
インストラクター回数が少ないので評価できない	看護師
インストラクターとしての経験が少ないため分からない	助産師
インストラクター補助としての経験が1度しかない	助産師
インストラクター補助の経験回数が少ないため	看護師
インストラクター補助の経験が少ないため	小児科医師
オプションとして	小児科医師
実際に使用する現場をみていない	産婦人科医
実際に心拍が出ることがないので効果が分からない	看護師
実際にやってみないと分からない	小児科医師
実際にやる機会がないので受講者ができるか心配	産婦人科医
実際の経験が少ないので	産婦人科医
実際の新生児とは圧迫の加減が違うので	小児科医師
専門外（日々の診療として新生児をあまり扱っていない）	小児科医師
蘇生全般（新生児の）に触れる機会が自分自身も少ないため	その他の医師
その後しっかり活用できているか分からない	小児科医師
その後の実際に患者に対応しているところを見ていないので	その他の医師
その場ではできるが実際に行えるかどうかの評価ができていない	看護師
その場の手技であって役に立っているか評価や声を聞いていない	看護師
初めて体験する方たちに受講時の時間だけでは不十分	看護師
バッグマスクに重点をおいたため	小児科医師
バッグマスクに重点を置いているから	産婦人科医
深さやスピードなど習得するには時間がかかる	小児科医師
復習した折に忘れてしまっている人が多いから	小児科医師
よし悪しが不明瞭	産婦人科医
理論的には分かっているも実践できるように身につけてもらった実感がない。	小児科医師
臨床経験がないため	看護師
臨床でしたことがないため	産婦人科医
臨床で実施することがほとんどないため習得できているか不明だが受講中は上手くいっていると思う	看護師
私自身が普段行う医療行為ではないため	産婦人科医

<あまり習得させることができていない>	
1回の講習会でマスターできるとは思わない	小児科医師
NCPRの基本にあり全ての分娩期間で実施できるから	産婦人科医
インストラクター補助のため指導は主にインストラクターがしているから	助産師
上手くできない人がいたから	看護師
看護師はあまり必要ではない	小児科医師
基本手技を指導できる時間が限られている	小児科医師
経験が不十分なので自信につなげていない	助産師
講習会だけでなく実地の経験が必要	産婦人科医
講習会の時間の関係や、受講者の職種などにより、ここまで手が回らないのが現実	産婦人科医
産科医で実際の経験がほぼないから	産婦人科医
自信がない	助産師
自信がない	産婦人科医
実際自分でも経験がない	産婦人科医
自分自身が未熟のため	助産師
自分自身にまだ自信がしっかり持てないからだと思う	助産師
習得させているといわせるほどに自分が習得していない	助産師
対象患者に遭遇していない	小児科医師
普段あまりしないから	看護師
普段行うことがなく、他の新生児科Drたちに比べ実際の指導の自信がないから	産婦人科医
まだ補助的にお手伝いさせていただいているので教えるということには不慣れな思いがある	助産師
まだ補助のみで少しの介助しか経験がない	助産師
臨床（開業産科）で用いる機会が少ない	小児科医師

※これは自由回答の抜粋です。

インストラクター：受講者に習得させることができている理由 (人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション)

<十分習得させることができている>	
現場で確認している	小児科医師
講義と演習でポイントを説明し皆確実に習得できているから	小児科医師
声掛けをしっかりとさせ協力することを促しています	小児科医師
個人個人の指の置き方、胸の上がり方等時間をかけて成功するまで行っているから	小児科医師
根拠はないが全員楽しそうにやっているので	小児科医師
視覚で判断しています	産婦人科医
時間をかけて実施	小児科医師
自信を持ってできる	産婦人科医
実技時間、アシスト人数とも十分であることから	小児科医師
実技のセクションで確認している	小児科医師
実際現場でできている	小児科医師
実際に行っている	産婦人科医
実際にできているから	小児科医師
実際の現場の様子から	小児科医師
自分の経験に基づき教えられていると思う	小児科医師
自分の手技が向上しインストラクターを数回して受講者への習得への指導法も向上している。複数のインストラクターで確認しながら行えている	助産師
十分できるまで時間をとっている	小児科医師
十分な習熟度が得られない受講者もいるため	小児科医師
主観的なもので特に根拠はない。今後はインストラクター側へのフィードバック方法を考えていく必要がある	産婦人科医
手技自体は難しい	小児科医師
少なくとも講習会では各受講者に実際に行ってもらおうとしっかり習得できている	産婦人科医
全員にシミュレーターを使って実技をしてもらっている。実技にはかなり時間をあてている。	小児科医師
タイマーをかけ全員に実施し確認している	助産師
タイミングの取り方	産婦人科医
テキストに従っている。自分自身の訓練と他者評価を受ける	助産師
出来ていると思う	小児科医師
出来るだけ蘇生シナリオで多く経験させている(実技主体)	産婦人科医
できるまでやってもらう	産婦人科医
特に時間をさいているから	産婦人科医
特に力点を置いて説明している	小児科医師
日常診療で行うこと、週1回院内の看護師に指導している	小児科医師
人形相手に限れば十分に実施できている	小児科医師
人形だからためらいなくできているというのは否めない	産婦人科医

<習得させることができている>	
123バッグが効果的でよく頭に入る	小児科医師
123バックのリズムは忘れにくい	小児科医師
2か月おきに繰り返し講習会を開催しているからおそらく	小児科医師
2人のテンポも徐々によくなるため	小児科医師
ABIにリズムの問題だから	産婦人科医
Bに加えて速度(テンポ)	看護師
頭では理解せ入っているようだがペースが上手くいかない者もいる	小児科医師
あまり時間がとれない	小児科医師
一度教えただけで十分できるようになるとは思えないから	産婦人科医
一度でも見て体験することでまったく違う。大人との違いや手技の違いは十分学べる。	助産師
一般的な手技や知識は伝えているが実際は不明	小児科医師
イメージがつけばよいと思っているから	産婦人科医
医療者の協調性が大切な場面であるとともに、この手技ができればさらに救命につながる	看護師
インストラクターDrの補助として受講者に声をかけ演習をしてもらっている	助産師
インストラクターをするたびにいつもさらに向上点が見つかるため(常に改善点がある)	産婦人科医
促したことでできるようになったから	看護師
概ねできているように見える	小児科医師
行う比率は学習できていると思う	産婦人科医
教えられることは全て教えているつもりだが十分かは分からない	小児科医師
基本はOK。ただ人形と実際との違いに戸惑うかも。	助産師
教科書的なことや実習は問題ないと考えているが、教わった人々が実際の必要な場面できちんとした手技ができているかまでは確認していないので、①にするにはおこがましい気がする。実際に役に立ってなんぼの内容なので。	産婦人科医
胸骨圧迫に比し、臨床的に効果がでるか評価が難しい	小児科医師
協力者とのリズムなど説明を加えているから	助産師
繰り返し行えるようインファンとの高さを調節するなどしている	助産師
コンビネーションのむずかしさを伝えることができた	看護師
最初できなかった人ができるようになっていたため	助産師
産科医院での仮死蘇生の立ち会い時に、チームとしての蘇生がうまく行えた経験があるから	小児科医師
参加者が困惑することなくスムーズに施行できた	産婦人科医
参加者の技術がほぼ習得できているから	助産師
参加者の手技の確認により	小児科医師
時間が足りず全ての人に十分ではいけない	小児科医師

※これは自由回答の抜粋です。

インストラクター: 受講者に習得させることができていない理由 (人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション)

くどちらともいえない>	
インストラクター補助の経験回数が少ないため	看護師
インストラクター補助の経験が少ないため	小児科医師
オプションとして	小児科医師
開催日に1回教えるのみだから	産婦人科医
片方のみの役割で終わることが多いため	助産師
経験がなく有効なのか分からない	助産師
経験不足のため	産婦人科医
結局実践で使えるかどうかなので	小児科医師
研修への参加回数が少ないので	助産師
講習会開催後の評価が分からないので。人形での実施では習得できていると思います。(正しい方法で行えているので)	看護師
講習会場ではできているが臨床の場では難しい様子である	産婦人科医
講習会だけでなく実地の経験が必要	産婦人科医
講習会の場ではできても現実には使えるかどうかは自信がない	助産師
時間が足りなくなる	小児科医師
時間が必要	産婦人科医
実際に行く場面がないのと、その場のみとなっているため	助産師
実際に経験したことがない	助産師
実際に現場で可能か不明	小児科医師
実際に使用する現場をみていない	産婦人科医
実際に心拍が出るのではないので効果が分からない	看護師
実際にやってみないと分からない	小児科医師
実際の経験が少ないので	産婦人科医
実際の蘇生の場で有効な手技が行えるのか判断できない	産婦人科医
実際の人間と人形には大きな差がある	小児科医師
実際の場面での実践評価ができていない	看護師
実際臨床での経験がないためテキスト上でしか伝えられない	看護師
自分の手技に自信がない部分があるから	助産師
ジャクソンリースbagでのCPAP、PPVは難しい	小児科医師
習得させるのに時間が足りない	産婦人科医
十分な時間がないので理解してくれているか不明	産婦人科医
手技的なことは全てインストラクターが行うので	助産師
手技に対する経験値から	小児科医師
受講者が理解したかどうかの反応をうけていない	看護師
受講者の知識の問題もあるため	産婦人科医
シミュレーションでの経験のみで実践の経験に乏しい。新生児科医が実施して下さるので。	産婦人科医
バッグマスク胸骨圧迫ともに習得できてもその組み合わせが受講者には難しいようです	小児科医師
バッグマスクに重点をおいたため	小児科医師
バッグマスクに重点を置いているから	産婦人科医
一人で行うことは実際困難	小児科医師
復習した折に忘れてしまっている人が多いから	小児科医師
普段あまり行っていないのでできるか不安があるため	看護師
補助しか行っていないので判断できない	看護師
まだ実践での経験が少ない	小児科医師
まだ補助しかしたことがないので	産婦人科医

くあまり習得させることができていない>	
1回の講習会でマスターできるとは思わない	小児科医師
インストラクター補助のため指導は主にインストラクターがしているから	助産師
上手くできない人がいたから	看護師
看護師はあまり必要ではない	小児科医師
基本手技を指導できる時間が限られている	小児科医師
緊急時のコンビネーションで実際その人とあたるとは言えないから	看護師
経験が不十分なので自信につなげていない	助産師
経験体験手移動であるため	助産師
講習会の時間の関係や、受講者の職種などにより、ここまで手が回らないのが現実	産婦人科医
産科医で実際の経験がほぼないから	産婦人科医
自信がない	産婦人科医
実際自分でも経験がない	産婦人科医
実際の状況をイメージするのが難しいようです	小児科医師
自分自身が未熟のため	助産師
自分自身にまだ自信がしっかり持てないからだと思う	助産師
習得させているといわせるほどに自分が習得していない	助産師
対象患者に遭遇していない	小児科医師
普段あまりしないから	看護師
普段行うことがなく、他の新生児科Drたちに比べ実際の指導の自信がないから	産婦人科医
まだ補助的にお手伝いさせていただいているので教えるということには不慣れな思いがある	助産師
まだ補助のみで少しの介助しか経験がない	助産師
臨床(開業産科)で用いる機会が少ない	小児科医師

※これは自由回答の抜粋です。

習得実感：＜職種別＞

習得実感：バッグマスク

		合計	習得できた実感がある	やや習得できた実感がある	どちらともいえない	あまり習得できた実感はない	習得できた実感はない	無回答
合計		1830	44.1	49.7	5.0	0.9	0.3	-
職業	小児科医師	129	66.7	27.1	4.7	1.6	-	-
	産婦人科医	170	63.5	34.1	1.2	0.6	0.6	-
	その他の医師	48	54.2	45.8	-	-	-	-
	助産師	832	37.1	55.9	5.6	0.8	0.5	-
	看護師	568	45.2	49.1	4.9	0.7	-	-
	救急救命士	23	34.8	52.2	8.7	4.3	-	-
	学生	39	10.3	71.8	15.4	2.6	-	-
	その他	19	42.1	52.6	5.3	-	-	-

◆職種によって手技の習得実感には大きな差がみられる。受講生の知識、経験等が大きく影響しているとみられる。

様々な職種、経験値の受講生に対し、手技の全てを1回の講習会で「十分に習得させ、実践で活かせるレベルに達すること」は難しいことであろうが、アンケートの結果を見る限り、受講生は少なくとも講習会を機に「ますます習得できた」と感じていると思われる。

インストラクターが、その都度、受講生に確認し、そのリアクションをみて、「習得実感を感じられる言葉がけ」=フィードバックをすることによって、受講生だけでなく、インストラクター自身の「習得させることができている」という自信にもつながるであろう。

習得実感：胸骨圧迫

		合計	習得できた実感がある	やや習得できた実感がある	どちらともいえない	あまり習得できた実感はない	習得できた実感はない	無回答
職業		1830	40.9	51.0	7.0	0.7	0.3	-
職業	小児科医師	129	68.2	27.9	3.1	0.8	-	-
	産婦人科医	170	64.1	31.2	4.1	-	0.6	-
	その他の医師	48	54.2	45.8	-	-	-	-
	助産師	832	33.3	56.6	8.5	1.1	0.5	-
	看護師	568	38.7	53.7	7.2	0.4	-	-
	救急救命士	23	52.2	34.8	8.7	4.3	-	-
	学生	39	23.1	69.2	7.7	-	-	-
	その他	19	42.1	52.6	5.3	-	-	-

習得実感：人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション

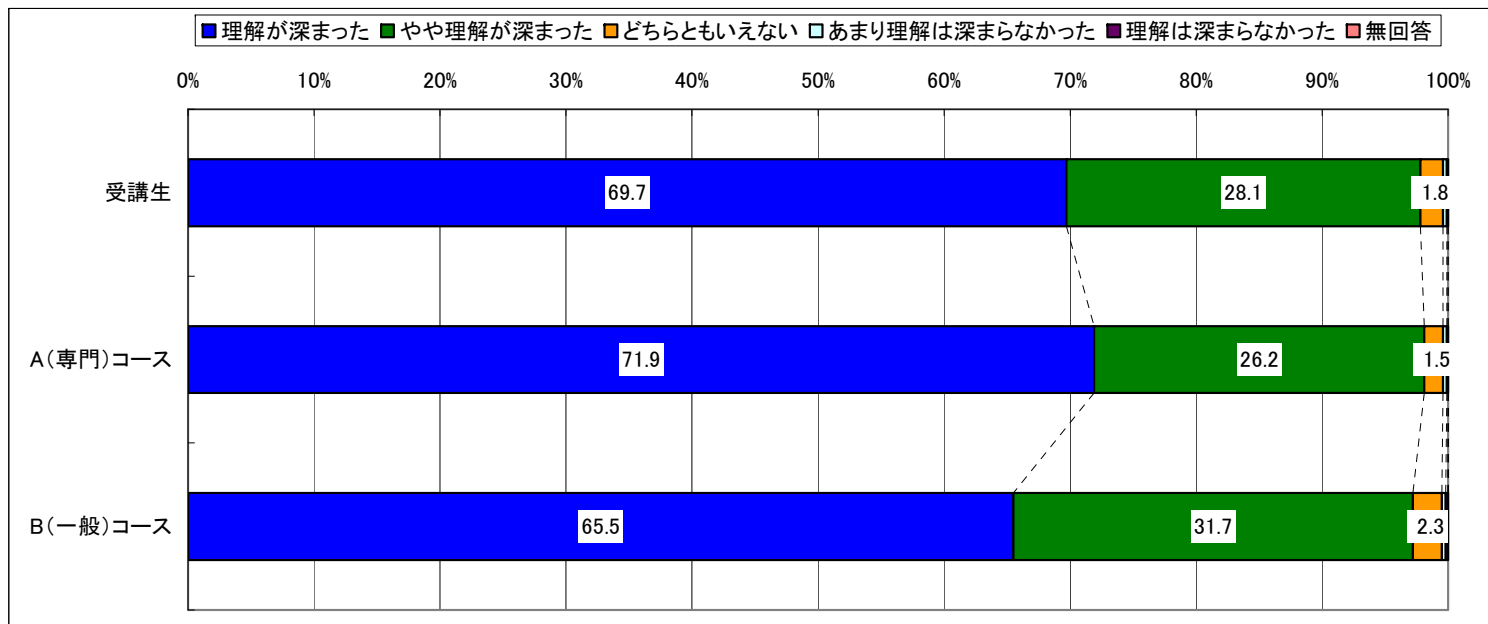
		合計	習得できた実感がある	やや習得できた実感がある	どちらともいえない	あまり習得できた実感はない	習得できた実感はない	無回答
職業		1830	40.6	50.8	7.4	0.9	0.2	-
職業	小児科医師	129	69.0	27.1	3.1	0.8	-	-
	産婦人科医	170	60.0	35.3	4.1	-	0.6	-
	その他の医師	48	56.3	43.8	-	-	-	-
	助産師	832	33.4	55.0	9.5	1.7	0.4	-
	看護師	568	39.1	53.7	6.9	0.4	-	-
	救急救命士	23	34.8	52.2	13.0	-	-	-
	学生	39	23.1	69.2	7.7	-	-	-
	その他	19	42.1	52.6	5.3	-	-	-

受講後の理解度の深まり具合：バッグマスク

受講生：受講後、それぞれの手技について、どの程度理解が深まりましたか？

◆「バッグマスク」「胸骨圧迫」「コンベーション」の手技について、全ての手技で97%以上の受講生が「理解が深まった・やや理解が深まった」と回答。

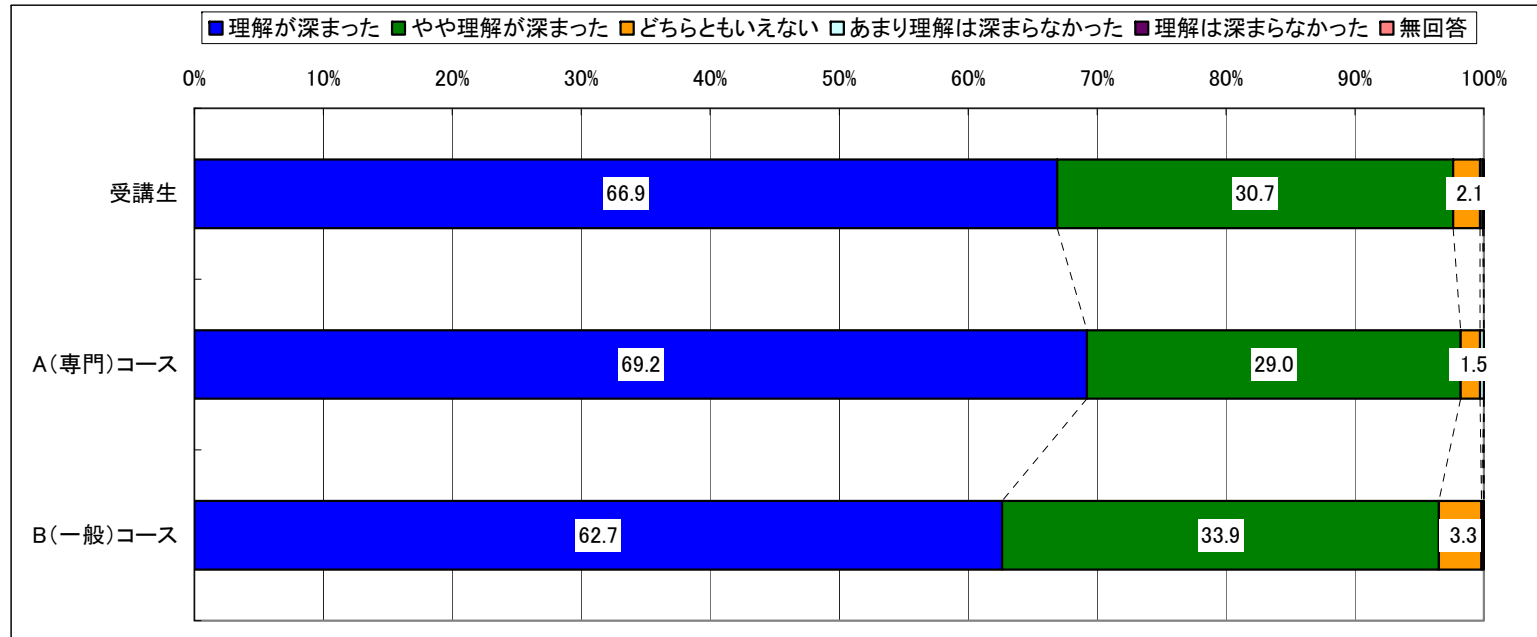
コース別ではBコースよりAコースの方が「理解が深まった」との回答が上回った。



		合計	理解が深まった計	理解が深まった	やや理解が深まった	どちらともいえない	理解は深まらなかった計	あまり理解は深まらなかった	理解は深まらなかった	無回答
受講生		1830	97.8	69.7	28.1	1.8	0.4	0.3	0.1	-
NCPR受講コース	A(専門)コース	1189	98.1	71.9	26.2	1.5	0.4	0.3	0.1	-
	B(一般)コース	641	97.2	65.5	31.7	2.3	0.5	0.3	0.2	-
職業	小児科医師	129	95.3	79.8	15.5	3.9	0.8	0.8	-	-
	産婦人科医	170	98.3	76.5	21.8	1.2	0.6	-	0.6	-
	その他の医師	48	100.0	75.0	25.0	-	-	-	-	-
	助産師	832	98.0	67.7	30.3	1.6	0.5	0.5	-	-
	看護師	568	98.6	70.6	28.0	1.4	-	-	-	-
	救急救命士	23	86.9	47.8	39.1	8.7	4.3	-	4.3	-
	学生	39	97.4	43.6	53.8	-	2.6	2.6	-	-
その他	19	84.3	63.2	21.1	15.8	-	-	-	-	

受講後の理解度の深まり具合：胸骨圧迫

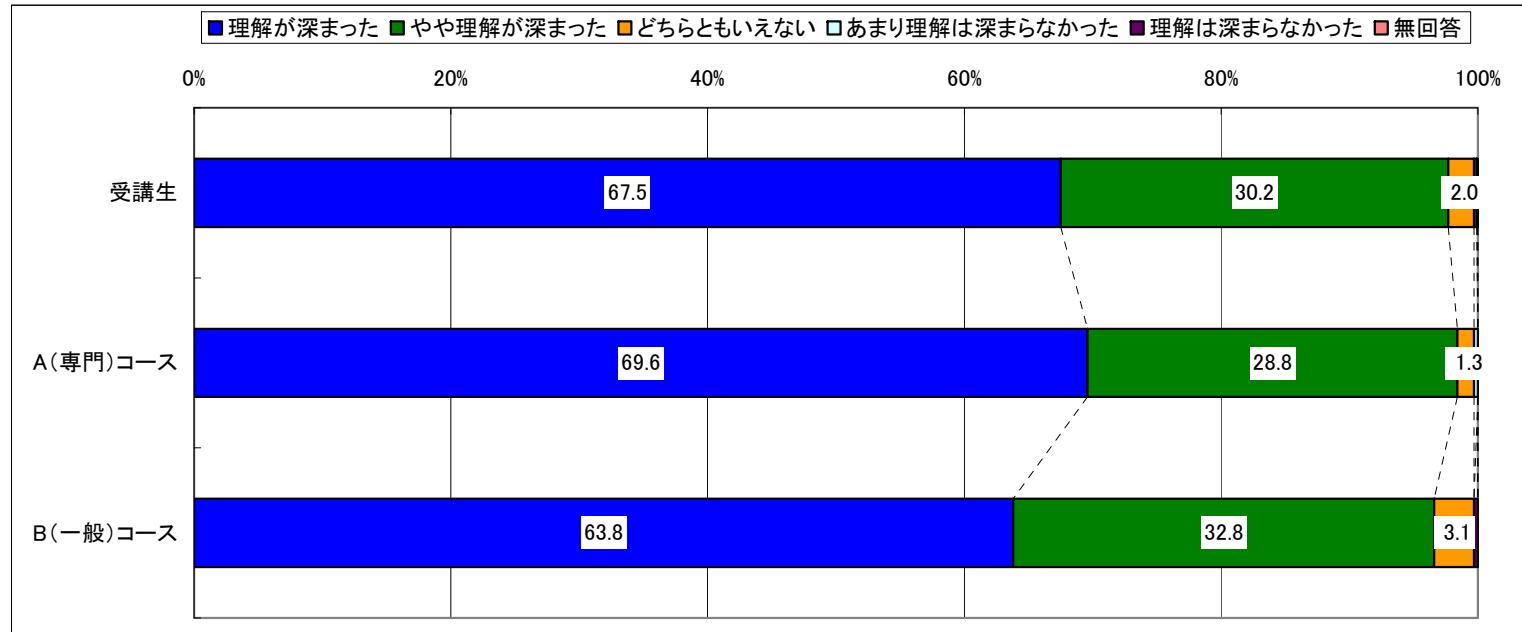
受講生：受講後、それぞれの手技について、どの程度理解が深まりましたか？



		合計	理解が深まった計	理解が深まった	やや理解が深まった	どちらともいえない	理解は深まらなかった計	あまり理解は深まらなかった	理解は深まらなかった	無回答
受講生		1830	97.6	66.9	30.7	2.1	0.3	0.2	0.1	-
NCPR受講コース	A(専門)コース	1189	98.2	69.2	29.0	1.5	0.3	0.3	-	-
	B(一般)コース	641	96.6	62.7	33.9	3.3	0.2	-	0.2	-
職業	小児科医師	129	96.2	76.0	20.2	2.3	1.6	1.6	-	-
	産婦人科医	170	98.8	72.9	25.9	1.2	-	-	-	-
	その他の医師	48	100.0	70.8	29.2	-	-	-	-	-
	助産師	832	97.4	64.9	32.5	2.4	0.2	0.1	0.1	-
	看護師	568	99.1	67.6	31.5	0.9	-	-	-	-
	救急救命士	23	82.6	47.8	34.8	17.4	-	-	-	-
	学生	39	94.9	51.3	43.6	5.1	-	-	-	-
その他	19	84.3	63.2	21.1	15.8	-	-	-	-	

受講後の理解度の深まり具合：人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション

受講生：受講後、それぞれの手技について、どの程度理解が深まりましたか？



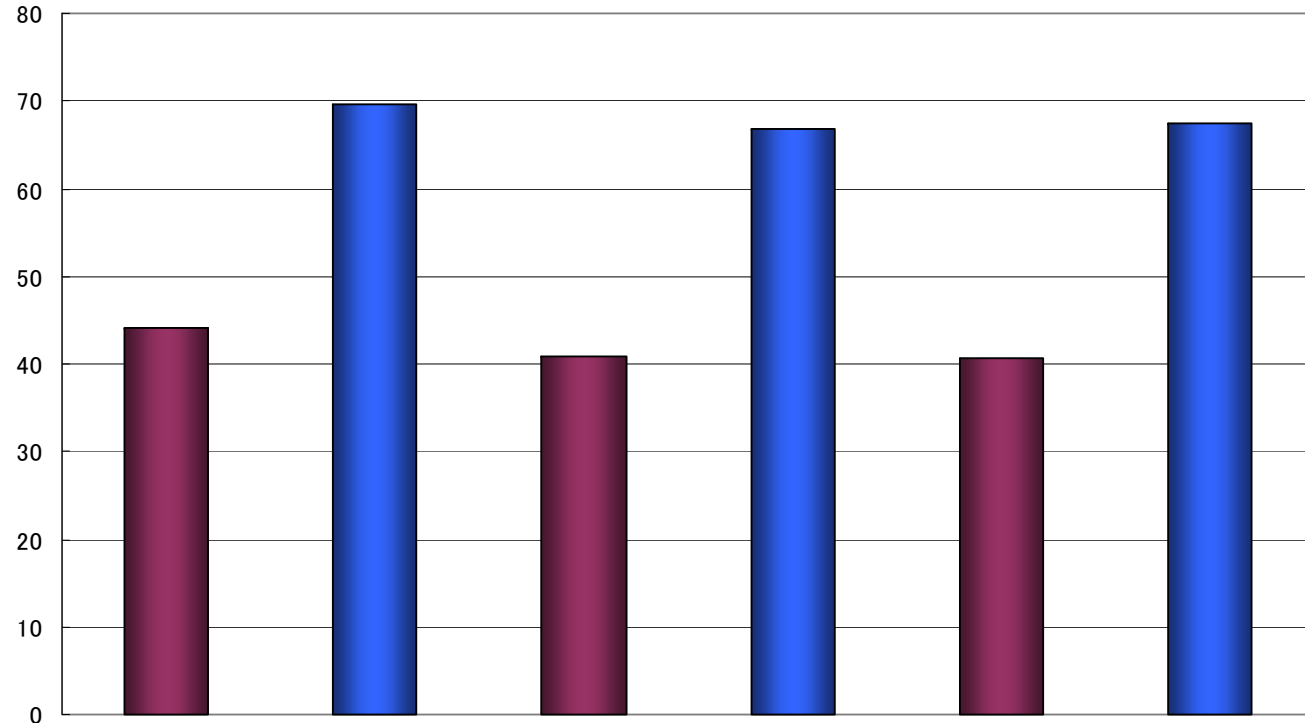
		合計	理解が深まった計	理解が深まった	やや理解が深まった	どちらともいえない	理解は深まらなかった計	あまり理解は深まらなかった	理解は深まらなかった	無回答
受講生		1830	97.7	67.5	30.2	2.0	0.3	0.2	0.1	-
NCPR受講コース	A(専門)コース	1189	98.4	69.6	28.8	1.3	0.3	0.3	-	-
	B(一般)コース	641	96.6	63.8	32.8	3.1	0.3	-	0.3	-
職業	小児科医師	129	96.1	75.2	20.9	2.3	1.6	1.6	-	-
	産婦人科医	170	98.8	72.9	25.9	1.2	-	-	-	-
	その他の医師	48	97.9	72.9	25.0	2.1	-	-	-	-
	助産師	832	97.5	66.0	31.5	2.2	0.3	0.1	0.2	-
	看護師	568	99.1	68.3	30.8	0.9	-	-	-	-
	救急救命士	23	87.0	43.5	43.5	13.0	-	-	-	-
	学生	39	97.4	48.7	48.7	2.6	-	-	-	-
その他	19	84.3	63.2	21.1	15.8	-	-	-	-	

受講生：習得実感×理解度の深まり具合 TopBOX比較

※TopBOX「習得できた実感がある」、および「理解が深まった」の比較

◆理解度に比べると、習得実感はやはり低い結果となった。

しかし、前述のとおり、「やや習得できた」を含めると90%以上の受講生が、習得実感をもっており、インストラクターの指導法によってこの結果をさらに高めていくことは可能であると思われる。



	（習得実感） バッグマスク	（理解度） バッグマスク	（習得実感） 胸骨圧迫	（理解度） 胸骨圧迫	（習得実感） 人工呼吸と胸骨圧迫	（理解度） 人工呼吸と胸骨圧迫
受講生	44.1	69.7	40.9	66.9	40.6	67.5

受講生：習得実感／理解度 × 受講前に特に習得したいと思ったこと

◆受講生が受講前に特に習得したいと思ったことの回答別に「習得実感」と「理解度」をみると、「やや」という回答を含めると、受講生の受講前の要望には概ね応えられているという結果となったが、TopBOXの数値を上げていくことがこれからのインストラクターの課題であろう。

バッグマスク

		合計	習得できた実感がある	やや習得できた実感がある	どちらともいえない	あまり習得できた実感は無い	習得できた実感は無い	無回答
受講生		1830	44.1	49.7	5.0	0.9	0.3	-
受講前に特に習得したいと思ったこと	バッグマスク	1278	37.9	55.6	5.3	0.9	0.3	-
	胸骨圧迫	853	41.3	52.8	4.8	0.7	0.5	-
	人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション	1241	42.1	51.7	4.7	1.1	0.3	-
	その他	102	52.9	40.2	5.9	1.0	-	-

バッグマスク

		合計	理解が深まった	やや理解が深まった	どちらともいえない	あまり理解は深まらなかった	理解は深まらなかった	無回答
受講生		1830	69.7	28.1	1.8	0.3	0.1	-
受講前に特に習得したいと思ったこと	バッグマスク	1278	67.6	30.6	1.5	0.3	-	-
	胸骨圧迫	853	68.6	29.2	1.8	0.4	0.1	-
	人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション	1241	68.6	29.5	1.5	0.4	0.1	-
	その他	102	73.5	21.6	2.0	2.0	1.0	-

胸骨圧迫

		合計	習得できた実感がある	やや習得できた実感がある	どちらともいえない	あまり習得できた実感は無い	習得できた実感は無い	無回答
受講生		1830	40.9	51.0	7.0	0.7	0.3	-
受講前に特に習得したいと思ったこと	バッグマスク	1278	35.4	56.3	7.2	0.8	0.3	-
	胸骨圧迫	853	37.2	55.9	6.0	0.5	0.5	-
	人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション	1241	38.7	53.8	6.5	0.6	0.3	-
	その他	102	53.9	39.2	5.9	1.0	-	-

胸骨圧迫

		合計	理解が深まった	やや理解が深まった	どちらともいえない	あまり理解は深まらなかった	理解は深まらなかった	無回答
受講生		1830	67.0	30.7	2.1	0.2	0.1	-
受講前に特に習得したいと思ったこと	バッグマスク	1278	65.5	32.2	2.1	0.1	0.1	-
	胸骨圧迫	853	67.6	30.4	1.8	0.1	0.1	-
	人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション	1241	66.2	31.8	1.8	0.2	0.1	-
	その他	102	73.5	22.5	3.9	-	-	-

人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション

		合計	習得できた実感がある	やや習得できた実感がある	どちらともいえない	あまり習得できた実感は無い	習得できた実感は無い	無回答
受講生		1830	40.6	50.8	7.4	0.9	0.2	-
受講前に特に習得したいと思ったこと	バッグマスク	1278	35.4	55.9	7.5	1.0	0.2	-
	胸骨圧迫	853	38.2	54.9	5.7	0.8	0.4	-
	人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション	1241	37.5	54.7	6.6	1.0	0.2	-
	その他	102	53.9	38.2	7.8	-	-	-

人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション

		合計	理解が深まった	やや理解が深まった	どちらともいえない	あまり理解は深まらなかった	理解は深まらなかった	無回答
受講生		1830	67.6	30.2	2.0	0.2	0.1	-
受講前に特に習得したいと思ったこと	バッグマスク	1278	65.6	32.2	2.0	-	0.2	-
	胸骨圧迫	853	68.5	29.7	1.6	-	0.2	-
	人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーション	1241	66.9	31.3	1.5	0.2	0.2	-
	その他	102	71.6	24.5	2.9	1.0	-	-

受講生：受講後、手技について気づいたことがあれば何でもご記入ください(自由回答)

心拍数を数えるのを6秒間数えてそれを10倍にすればよいということは思い浮かばなかった。	産科医師
もっと時間を割いても良い気がする	産科医師
マスクフィッティングに關してもう少し詳しい説明があっても良かったのではないか	産科医師
受講者が少なかったので実践が繰り返して行えて勉強になった	産科医師
今までの蘇生が少し乱暴だったと反省しました	産科医師
今まで行ってきた手技を再確認できてよかった・コンビネーションのむずかしさ	小児科医師
ブレンダーの調整が難しい	小児科医師
Tピースがない施設なので他のマスク等での手技も行いたかった	小児科医師
自分の勤務施設にどのような設備があるのか、使えるのか考えた	小児科医師
時間が十分でなかったためか、全員が全ての手技を実際に行えなかったようだ	小児科医師
胸骨圧迫の2本指圧迫法が思ったよりも術者が疲労しやすいう手技であると実感した	小児科医師
手技はやはり人形だけだと心もとない部分がある	小児科医師
O2使用頻度が少なかったこと。正常産児には喉頭鼻腔吸引不要のこと。	小児科医師
胸骨圧迫が今までしていたことがやや不十分だったと思われました	小児科医師
流量膨張式バッグも使用してみたかった	その他医師
臍帯のライン確保もやってみたかった	その他医師
バッグマスクについてかなり鼻口に押し当てないと有効な換気は得られないと感じました	その他医師
CPAPは難しい。ジャクソンリースの使用法は難しい。	助産師
Drまかせにしていたことが協力者として自ら蘇生にあずかれると気づいた	助産師
慌てずに行動できることが多くなった	助産師
インストラクターが知識技術不足で付け焼刃であった	助産師
思っていた以上に力があると感じた	助産師
会議室ではなく実際にスペースがあり、CPAP・人工呼吸等学べるともっと良かったと思う。	助産師
胸骨圧迫(一人で言う方法)は、中指と薬指がより安全に効果的に行えることを実感しました	助産師
胸骨圧迫と、人工呼吸と胸骨圧迫のコンビネーションについては実習が全く行われず、バッグマスクについても私が促したのでインストが行ってくれた程度	助産師
胸骨圧迫の方法で1/3の深さまで圧迫するという実技を行う時、自分が本当に圧迫できているか不安に思った	助産師
グループの指導者による内容の違い	助産師
見学すると実技を行うのでは難しさがまったく違っていました	助産師
効果的なバッグマスクは思っていたよりも難しかった	助産師
個人病院での設備内での応用も教えていただけたら嬉しいです	助産師
実技を行なう時間が十分にあり、指導のもとに手技を習得できました。	助産師
実際に対応できるかどうか自部署の物品を整備する必要がある	助産師
実際の場面で活用するには定期的シミュレーションを行う必要があると感じた	助産師
シナリオ演習で実習のおさらいができ理解が深まった	助産師
ジャクソンとアンビュー両方とも習得は難しいです	助産師
手技を単独ではできてケースに則して判断と指示をしながら手技を行なうのは難しい	助産師
少人数での受講だった為、何度も実施する機会があり、手技の確認がしっかり行えた	助産師
助産院の助産師が多い講習でした。病院にある機器を前提での説明だったのでもう少し必要最低限の物品で行うということも念頭に説明してくれると実践に生かしやすいと思います。	助産師
人工呼吸と胸骨圧迫の際、二人で息を合わせてやるのが大事だと思いました	助産師

人工呼吸をもっと練習したかったです	助産師
挿管について介助する手技でも良いと感じた	助産師
挿管の手技を一回体験したのですが、もう少し時間があって体験したかったと思いました	助産師
定期的に練習する機会があればよいと思った	助産師
人形と実際では違いがあると思うが、何度も練習することが必要だと感じました	助産師
バッグマスクが意外と難しかった。人形と実物の新生児では手技の感覚にどのような違いがあるか教えていただきたいかった	助産師
バッグマスクの空気漏れのないようにするコツや胸骨圧迫で注意する点など学べて良かった	助産師
マスクの当て方が自分が下手だった。今後の練習していかなければならない。	助産師
マスクや胸骨圧迫の力の入れ具合が体験してよく分かった	助産師
もう少ししっかり技術を身につけたい	助産師
理解は深まったが難しい	助産師
流量膨張式バッグの感覚をつかむために、配管のairを用いて実施してみたかった	助産師
流量膨張式を使っているので、できればそちらも使用してほしいと思いました	助産師
インストラクターにより手技に対する説明に差があると感じた	看護師
回数などの夢中になってしまうと一つ一つが雑になってしまうので注意したい	看護師
現場ではバッグマスクしてためならず挿管、という感じだが、蘇生法では意外とバッグマスクでねばるんだなという印象が強かったです	看護師
効果的な胸骨圧迫が行えているかどうかの評価を伝えてほしかった。バッグマスクは一通り練習して評価があったので。	看護師
仕事に役立てられそうだと感じた	看護師
実技を決められた人が行ったのですが、たくさん経験した人、そうでない人の差があった	看護師
自分自身手技にまだ不安点があったため、もっとたくさん実技をしたかった	看護師
丁寧に和気あいあいと行われ緊張なく臨めた。環境が良かった。	看護師
手が小さいのでそれぞれの手技についてやや難しさを感じた	看護師
テキストを読むだけでは理解出来なかった事も受講し、自分でやってみて良く理解する事が出来たと思います	看護師
何度も繰り返し行うことで慣れてきた。もっと知識技術を得たいと思った。	看護師
人形では胸骨圧迫の感覚を身につけるのは難しい	看護師
人形やブレンダーなど実践する物品が病棟にそろっていないため受講した時のような再現がしにくい、ある物品で工夫し継続してデモンストレーションを行っていたい。時間と行う速さがとても大切だと感じた。	看護師
バッグマスクの際、マスクを顔に密着させるのが意外に難しかった	看護師
母指法で背部を支えつつ、垂直に圧迫する事はかなり難しいと感じた	看護師
マスクからエアがもれないように密着させるのが難しかった。胸骨圧迫がつかれた。	看護師
間違った手技を覚えていたためすぐ役に立った	看護師
難しい。新生児なのでこちらの手技で決まる感じがする。	看護師
もっと実技の時間が欲しい	看護師
一つ一つが難しかったのでもう少し長く演習できるのいいと思いました	学生
時間を長くとったわりに自信が持てない	学生
何度も繰り返しやらなければ意味がないと感じた	学生
胸骨圧迫が正しく行われているのか実感しにくい	学生
見学時間が多く、スキル実習時間が短く感じた	救急救命士
新ガイドラインでは胸骨圧迫の位置が明確でないのが気になる	救急救命士
両手法の胸骨圧迫における、胸骨と両手母指の位置関係があいまい	救急救命士
消防職での受講で、院内器具の理解や使用法に時間をかけすぎた	救急救命士

※これは自由回答の抜粋です。

インストラクター：受講生へ手技を指導するにあたり、お気づきの点やご意見等何でも結構ですのでご記入ください(自由回答)

1ブース当たりの受講者数が多いと習得が難しいように思います。人数に上限を設けてはどうでしょうか	小児科医師
MRSoPAIに相当する日本版のご合わせがあればなあと思います	小児科医師
上手く受講者の気持ちを和らげるのが難しい	小児科医師
大方の人は熱心に取り組んでいる	小児科医師
多くの内容(細かい内容)を教えようとすると、かえって何も習得できない。細かい圧や回数とはとかく、とにかくマスクバッグのみという具合にすれば習得しやすくなる。	小児科医師
各自の理解度に応じた指導が大事と思う	小児科医師
体を使って繰り返しやらせることが大切だと思います	小児科医師
完全に練習するには時間が少し短く感じます	小児科医師
技術が伝授できるビデオがあると嬉しい	小児科医師
基本手技の実技の時にアルゴリズムの説明に時間を取りすぎるインストラクターが多い印象がある	小児科医師
繰り返しが必要。長いシナリオより回数多く。	小児科医師
現場に近い実習にするにはどうすればよいかが必要	小児科医師
呼吸状態が言葉では分かってても、理解難しい受講者がいるように思う。努力呼吸・あえぎ呼吸などのビデオ教材があると良いと思う。	小児科医師
最終的な合否は現在ポストテストになっていますがどうしても手技が習得できない方もあります。インストラクターの手技の合否判断は必要ないでしょうか？	小児科医師
時間が短い・各施設で使っている道具が異なるのでそれに合わせたことができない。	小児科医師
自身の経験に頼る部分があり、客観性を持たせるのに工夫がいる	小児科医師
シナリオでCPAPができない開業医のスタッフレベルのものが欲しい	小児科医師
自分が指導できるほど十分な技能を持ち合わせていないと申し訳ない気持ちになる	小児科医師
受講してくれたい人が多くいる分、デブリーフィングがなかなかすすまない。	小児科医師
受講者のレベルにあわせて学習到達目標を明確に示す	小児科医師
受講者はNsが多いがほとんどのの方が積極的である。しかし中には全く予習されていない方がいて少し差がある。	小児科医師
受講生がどこまでわかっていて、何を知りたいと思っているかを十分把握していないと指導は難しいものになります	小児科医師
シュミレーションの時間を長くとっている	小児科医師
人工呼吸プラス胸骨圧迫までが大切な手技と考え時間をかけると、薬剤・挿管がウエイトとして軽くなりがち	小児科医師
スライドの時間が長い。もっと手技に時間をさくべき	小児科医師
楽しめ自信を持たせること	小児科医師
地域の特性や受講者の所属に応じた指導ができればと思う	小児科医師
デバイスがあまり良くない環境だと本当に適切な指導ができない(PEEPが十分保てない、O2が100%のみなど)	小児科医師
人形のクオリティが結構大切・SpO2シュミレーターは結構有効	小児科医師
人形をもう少しリアルに作ってほしい。マスクフィット感が実際と全く違う。	小児科医師
バッグマスクで使用するマスクは多種あった方がよい	小児科医師
バッグマスクの練習が一番難しい。手の大きさや指の太さによりやりやすいマスクの押さえ方が違う様子。色々なタイプのマスクを準備できれば良いのかと思う。	小児科医師
バッグマスクを十分行えている人が多い	小児科医師
普段どういったことに疑問もっているのか、又受講者が経験したケースなどを発表する時間が取れると良いかと思っています	小児科医師
ブレンダーやジャクソソリスのない施設の受講者も多く、どのような指導が有効なのか	小児科医師
他のインストラクターがどのように教えているのか、一般的に教え方のノウハウがあるのかなど知りたい	小児科医師
マスクCPAPが指導しづらい・蘇生後のケアの説明が少ししづらい	小児科医師
マスクの密着・手技の有効性の確認法	小児科医師
やや時間不足を感じます	小児科医師
流量膨張式バッグがもう少し使えるといい	小児科医師
講習での手技習得が現場でどのように生かされているか知りたいと思う	小児科医師
1回の講習では習得できることも少なく、続けて勉強やシュミレーションしてほしいが現場のモチベーションがなかなかあがらない	産科医師
30秒の時間の実感をつかんでもらうのが難しい。実際の時間経過での実習の仕方が難しい。教材は良いと思います。	産科医師
Bコースでは時間に制約があるため、さらに産科診療所のスタッフが多数参加するため、バッグマスクが確実にできるようにすることを目標とした方がいい。胸骨圧迫まで行うと実習が薄っぺらくなる。	産科医師
インストラクター自身もコアインストラクターや新生児科医から手技の指導を受けてから教えている。講習会終了後に希望者(グループ)にバッグマスク、マネキン、タイマーを貸し出してさらに研修を積んでもらっているが、これは参加者から好評を得ている	産科医師

気道開通と気道確保の違いが明確でない	産科医師
胸骨圧迫が適切か、バッグマスクが適切か、マネキンの胸部の動き、見た目である程度評価できるが、さらに客観的に評価できるマネキンを標準的に使用できるとよい	産科医師
時間が少ないため十分に教えられていないという印象があります。流れ(教え方の)講習会等あればと思います	産科医師
自施設内での講習会で全員知り合いでも、自己紹介を行うことで、講習会の「馴れ合い感」を失くすことができると思います。自己紹介は大切だと思います。	産科医師
持続して指導する必要性。受講者も忘れるので再講習の必要性。	産科医師
実技時間をするだけ用意する方が受講者の満足度は高いです	産科医師
実際に行ったことのある手技は自信を持って指導できますが、行ったことのないものは見たことがあってもなかなか難しいと思います	産科医師
自分からすすんで発言、実行するように促す	産科医師
手技実習の時間が足りないと思うまま終了することが多い	産科医師
手技のスライドが多いと助かります	産科医師
助産師・看護師へも挿管を教えればさか(今は教えている)	産科医師
テストの実施により講習がスムーズに進むことを感じます	産科医師
なるべく単純なアルゴリズムの方が指導しやすい	産科医師
フリーでサポートして下さる小児科(新生児科)の先生が一人でもいてくださると心強いです	産科医師
アルゴリズムの流れも重要だが一つずつの手技を丁寧に30秒にとらわれずに行うことも必要	看護師
繰り返し行うことで正しい手技を習得できると思う	看護師
講習、技術とも繰り返し行うことが習得したことを維持できると思う。病院内スタッフには、3~5か月に1回は繰り返し行うようにしている。	看護師
習得ができていく受講者に対する配慮、相手を傷つけず積極的に学んでいくという姿勢に向けるむずかしさ	看護師
受講者の職種・経験がまちまちのため、初めての人に合わせて説明しているが、色々な気づきを発言してもらおうようにしています	看護師
使用する人形によって抵抗やエアの漏れ具合が違い、成功体験のないままの受講者もいた可能性がある	看護師
その場、当日の技術であり維持していけるか現場はシナリオ通りにはいかないなので実践できる指導もできているのかは不安になります	看護師
特に胸骨圧迫等は実践する機会も少なく技術が身につけているかの確認(受講後)は難しい。フォロアップも必要か？	看護師
人形を使用するためマスクの密着が上手くいきづらく、上手に胸が上がらない場合があるなど、人形ならではの演技の不都合があった	看護師
やはり最近目立つのは資格を取ることが目的で手技は別にという方が多い。残念です。手技も資格にいられたらどうか？	看護師
ICクランプをするうえで手の大きさもあるのか、物品の種類にもよるのか、フィットが難しい人がたまにいます	助産師
筋緊張がない状態を体感できると思う	助産師
グループの中に経験の浅い方とベテランの方がそれぞれいた方がよい	助産師
グループの人数が多いときは物品およびアルゴリズムの説明をはっきりと声を大きくして行ってきたい	助産師
様々な受講者の方がいらっしゃるのでも、専門用語などが使えない。使わない方が効果的。	助産師
自尊感情を気づけずに笑顔で接します。しっかりと教えるを両立できるようにしています。	助産師
実際にバッグマスクをやってもらって自分たちが思っていたよりゆとりという意見がよくでる	助産師
実際の臨床でのエピソードを加えられると受講者はイメージが明確となりコツをつかみやすいと思う	助産師
受講者は緊張すると頭が真っ白になり理論的に考えられなくなる。受講者がリラックスしてよく考えながらできるように心がけている	助産師
蘇生人形は鼻の付け根あたりからリークしやすく、ICクランプの習得がしづらいように感じている	助産師
蘇生人形を使いマスクを使う時、実際のベビーとの力の加減を伝えながら行ったり、一人一人演習中に声をかけ、終了時拍手をしてねぎらうなどの気遣いが必要	助産師
特に補助インストを行う場合「はいやって」と見本もなく丸投げされるのがとても厳しい。補助がオロオロしているのをインストラクターが助言している姿は受講生にどう映るのか。	助産師
どこを直したらうまくいくか早く見つけることが大切	助産師
面識のない受講者に指導するときに、口数が遠慮で少なくなるのでは。知人同士だとまた私語が多くなる。手技をマスターさせるにはインストラクターの熟知が必須であると考えます。	助産師

※これは自由回答の抜粋です。